

子どもの事故防止

◆ 子どもの発達と事故例

子どもの事故は運動機能の発達と密接な関係があります。このことを理解すれば、大部分の事故は防止可能です。いつ頃、どんな事故が起こりやすいか、知っておくことは大切です。子どもから目を離さず事故防止に努めましょう。

	誕生	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	12か月	13か月	1歳半	2歳	3歳	3〜5歳
運動機能の発達		★体動 ★足をバタバタさせる		★見ものに手を届ける ★口の中にもものを入れる	★寝返りをうつ	★座る	★はう	★ものをつかむ	★家具につかまり立ちする		★一人歩きをする	★スイッチ・ソフ・ダイヤルをいじる	★走るのほる	★階段をのぼりおりする	★高い所へのほれる	
転落	●親が子を落とす	●ベッド・ソファからの転落			●歩行器による転落	●階段からの転落	●浴槽への転落	●パギーやいすからの転落	●浴槽への転落	●階段ののぼりおりの転落		●窓バルコニーからの転落	●すべり台・ブランコ			
切傷・打撲			●床にある鋭いもの	●鋭い角のあるおもちゃ			●鋭い角の家具・道具	●カミソリのいたす			●鋭いテーブルの角・ドアのカラスタブに手をはさむ	●鋭いテーブルの角・ドアのカラスタブに手をはさむ		●屋外の石など		
やけど※	●熱いミルク				●ホット・食事			●ストーブ・ヒーター						●マッチライター	●湯わかし器・花火	
誤飲・窒息	●まぐら・柔らかいふたによる窒息				●何でも口に入れる		●小物・たばこ・小さなおもちゃの誤飲	●よだれかけ・ひも	●コート		●薬化粧品			●ナッツ・豆類	●ビニール袋	
交通事故	●自動車同乗中の事故						●母親と自転車の二人乗り				●道でのヨチヨチ歩き		●歩行中の事故		●三輪車	●自転車
溺水事故		●入浴時の事故					●浴槽への転落事故									●プール・川海

※炊飯器や電気ケトルでやけどをする事故が起きています。注意しましょう。

こどもの事故防止ハンドブック

こども家庭庁では、0歳から6歳(小学校に入学前の未就学児)の子どもに、予期せず起こりやすい事故とその予防法、もしもの時の対処法のポイントをまとめた「こどもの事故防止ハンドブック」を発行しています。明るく楽しい子育てと、毎日の生活のために、子どもを事故から守る正しい知識を身につけて行きましょう。

こどもの事故防止ハンドブックについて こども家庭庁 <https://www.cfa.go.jp/policies/child-safety-actions/handbook>

◆ 生活の場における起きやすい事故

キッチン周辺

- うっかり包丁を置いたままにしておいたまな板にさわろうとする
- 引き戸や引き出しをあけてしまう
- ごみ箱のごみを食べる
- ポットをいたずら
- 家具を引っ張り転倒
- 室内のペットにかまれる

- テーブルの角に頭をぶつける
- 飲み残しのお酒をのむ
- テーブルクロスを引っ張り熱いみそ汁やコーヒーをかぶる
- お菓子を包み紙ごと口の中へ
- イスに登ろうとして転倒

風呂・脱衣所

- 洗濯機に入る
- 湯ぶねにおちる
- 熱いシャワーをあびてしまう
- すべり転倒

ベランダ

- ベランダからおちる
- ハチにさされる

その他室内

- 化粧品やタバコを食べる
- クッションで窒息
- 窓からおちる
- ブラインドのひもが首にからまる
- ベッドからおちる

◆ 異物を飲みこんでしまったら…

子どもが飲みこんだものを家庭で吐かせることはむずかしいため、むやみに吐かせてはいけません。吐いたものが気管に入ったり、誤飲したのものによっては症状が悪化する危険もあります。

この円(直径39mm)の中を通る物は赤ちゃんの口に入ります。

◆ 誤飲の際の対応のポイント

誤飲したもの	応急手当	
たばこ・加熱式たばこ	→ 何も飲ませない	ニコチンが溶けだして吸収されやすくなるため、水分は与えない。
大部分の医薬品など	→ 水や牛乳を飲ませる	飲み込んだ医薬品の名称や飲んだ量を確認する。
ナフタリン・パラジクロルベンゼンなどの防虫剤	→ 牛乳は飲ませない → 水は飲ませてよい	成分が脂肪分に溶けて吸収されやすくなるため、牛乳は与えない。
除光液・灯油・ガソリン・ベンジンなどの揮発性物質	→ 何も飲ませない	水分を飲ませると吐きやすくなり、また、牛乳は揮発性物質を吸収しやすくなるため、何も飲ませない。
トイレ用洗剤・漂白剤などの強酸性や強アルカリ性の物質	→ 水や牛乳を飲ませる	刺激性が強く、炎症を起こす可能性があるため、水や牛乳を飲ませ、粘膜の損傷を抑える。
ボタン電池・マグネット・金属製品	→ 何も飲ませない	ボタン電池やマグネットの誤飲は消化管に穴があく場合もあり、たいへん危険なので、すぐに病院へ。

吐かせないで
至急、病院へ

ワンポイント

救急車を呼ぶ場合
119番

- 119番にかけ「救急です」とはっきりと告げる。
- あわててしゃべらず、聞かれたことにははっきりと答える。
・氏名・住所・目印・電話番号
・「いつ」「どこで」「どうした」などの状況と症状の説明
- 到着するまでに何か処置する必要があるかたずね、指示に従う。

問合先 こども家庭センター(こども家庭課内) TEL 0299-95-9576